

製品名: ErbB-4 (リン酸化 Tyr1284) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04628**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	180kDa

抗原情報

遺伝子名	ERBB4
別名	ERBB4; HER4; Receptor tyrosine-protein kinase erbB-4; Proto-oncogene-like protein c-ErbB-4; Tyrosine kinase-type cell surface receptor HER4; p180erbB4
遺伝子 ID	2066.0
SwissProt ID	Q15303
免疫原	抗血清は、ヒト HER4 由来の Tyr1284 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 1250-1299

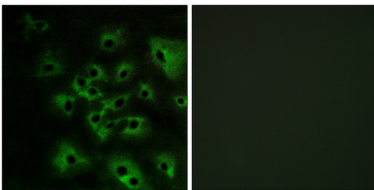
背景

この遺伝子は、Tyr タンパク質キナーゼファミリーおよび上皮成長因子受容体サブファミリーのメンバーです。複数のシステインリッチドメイン、膜貫通ドメイン、チロシンキナーゼドメイン、ホスホチジルイノシトール-3キナーゼ結合部位、および PDZ ドメイン結合モチーフを有する、1回膜貫通型I型タンパク質をコードします。このタンパク質はニューレグリンなどの因子に結合し、活性化されて、有糸分裂誘発や分化を含む様々な細胞応答を誘導します。複数のタンパク質分解反応により、細胞質断片と細胞外断片が放出されます。この遺伝子の変異は癌との関連が報告されています。異なるタンパク質アイソフォームをコードする選択的スプライシングバリエーションが報告されていますが、すべてのバリエーションが完全に特徴付けられているわけではありません。 [RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: $ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸$ 。 ,ドメイン: WW 結合モチーフは WWOX との相互作用を媒介します。 ,機能: ニューレグリン、NRG-2、NRG-3、ヘパリン結合性 EGF 様成長因子、ベータセルリン、および NTAK に特異的に結合し、活性化されます。これらの因子との相互作用は細胞分化を誘導します。 EGF、TGF-A、およびアンフィレグリンによっては活性化されません。 ,PTM: アイソフォーム JM-A はプロセシングされますが、アイソフォーム JM-B はプロセシングされません。したがって、これらはそれぞれ受容体の切断可能な形態と切断不可能な形態を表します。 ,PTM: リガンド結合はチロシン残基のリン酸化を増加させます。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 Tyr タンパク質キナーゼファミリー。 EGF 受容体サブファミリー。 ,類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。 ,サブユニット: 他の ERBB 受容体とホモ二量体またはヘテロ二量体を形成する (可能性あり)。 DLG2、DLG3、DLG4 の PDZ ドメイン、およびシントロフィン SNTB2 と相互作用する。 CBFA2T3、MUC1、WWOX と相互作用する。 ,組織特異性: 脳、心臓、腎臓に加え、骨格筋、副甲状腺、小脳、下垂体、脾臓、精巣、乳房でも最も高い発現レベルを示す。胸腺、肺、唾液腺、膵臓でも低い発現レベルを示す。アイソフォーム JM-A とアイソフォーム JM-B は小脳で発現するが、心臓ではアイソフォーム JM-B のみが発現する。 ,

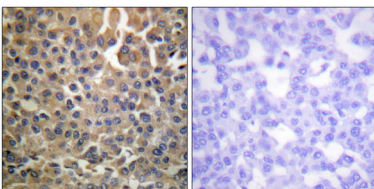
研究分野

ErbB_HER;カルシウム;エンドサイトーシス;

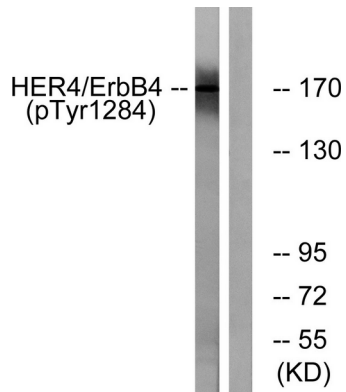
画像データ



EGF 200nM 5'で処理した HeLa 細胞を HER4 (リン酸化 Tyr1284) 抗体を用いて免疫蛍光染色で解析した。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした。



HER4 (リン酸化 Tyr1284) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 200 ng/ml 30分処理した HUVEC 細胞ライセートの HER4 (リン酸化 Tyr1284) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。